29P1-pm006

京都薬科大学における病院・薬局見学 － 2006 年度～ 2011 年度の学生アンケートによる経時的調査－

○今西　孝至[1], 中村　暢彦[1], 津島　己幸[1], 金澤　治男[1], 橋詰　勉[1], 髙山　明[1]（[1]京都薬大）

【目的】2006 年度より薬学教育 6 年制が開始され、薬学教育モデル・コアカリキュラムの一つである早期体験学習も 6 年が経過した。本学では早期体験学習の一環として 1 年次前期（5 月~ 7 月）に病院または薬局を見学する体験学習（病院・薬局見学）を実施している。そこで今回、2006 年度 ~ 2011 年度の 6 年間に実施した病院・薬局見学の学生アンケートを基に経時的な調査を実施したので報告する。

【方法】2006 年度から 2011 年度までの 1 年次生を対象に病院または薬局のいずれか（2009 年度のみ両施設）を見学させた。見学前アンケートは導入講義時に配布し、直ちに回収した。見学後アンケートは導入講義終了時に配布し、見学翌日に報告書と一緒に提出させた。なお、アンケートは無記名回答とし、見学前後のアンケートは 6 年間同じものを使用した。

【結果・考察】見学前アンケートからの質問「将来なりたい職業は何ですか」の回答として、2006 年度では研究職（31.0%）、病院薬剤師（27.6%）、薬局薬剤師（13.8%）であったのに対し、6 年後の 2011 年度では研究職（23.1%）、病院薬剤師（44.0%）、薬局薬剤師（10.7%）となった。見学後アンケートからの質問「見学前後での薬剤師のイメージは変わりましたか」の回答では、2006 年度 ~ 2011 年度の 6 年間いずれにおいても約 70 ~ 80%の学生が『変わった』と回答した。今回の調査の結果から、入学当初の学生が志望する職業の動向を観察することできた。また、病院・薬局見学で薬剤師業務の目に見えない部分を知ることにより社会における薬剤師の役割について十分に理解できたものと考えられる。今後は、学生が病院・薬局見学に積極的に参加できるように訪問前の講義等に SGD を導入するなど工夫を加え、改善をしていく予定である。